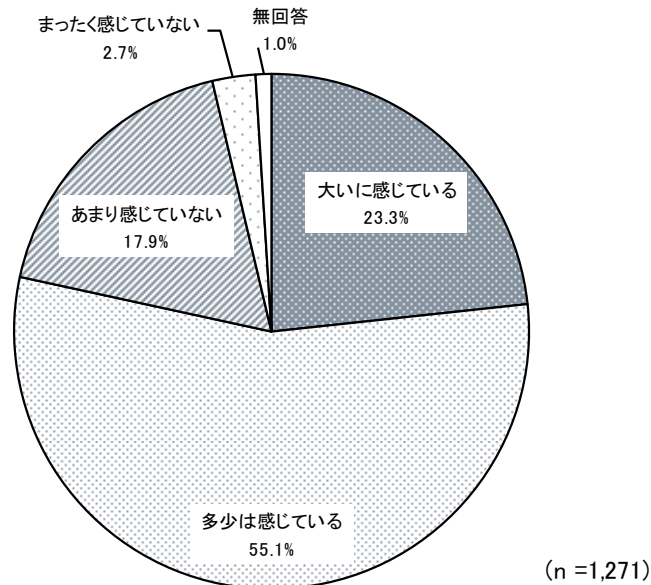


13 食の安全・安心について

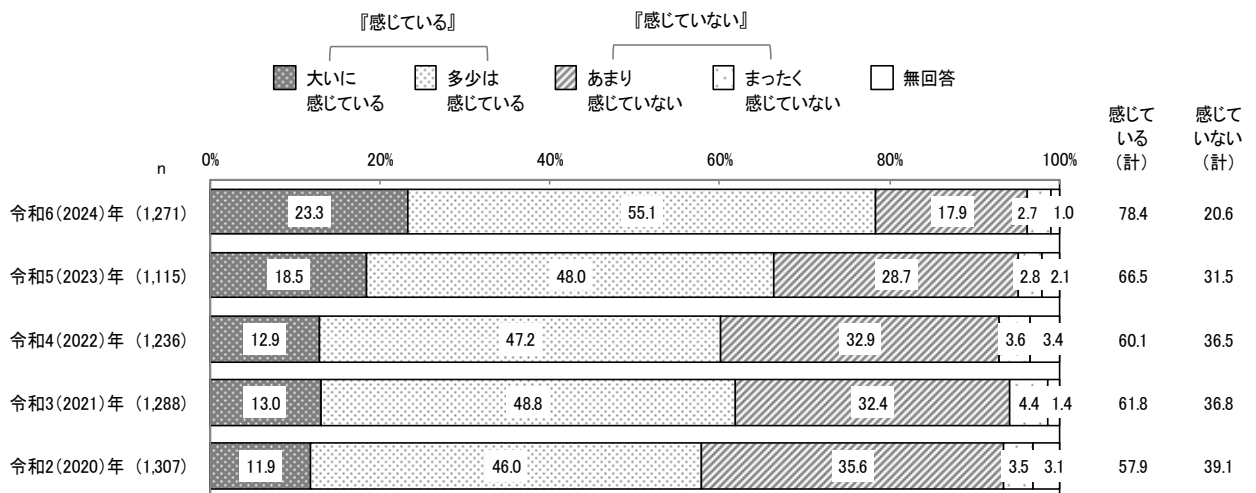
(1) 食品の安全性に対する不安

問30 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1 大いに感じている	23.3%	3 あまり感じていない	17.9%
2 多少は感じている	55.1%	4 まったく感じていない	2.7%
		(無回答)	1.0%

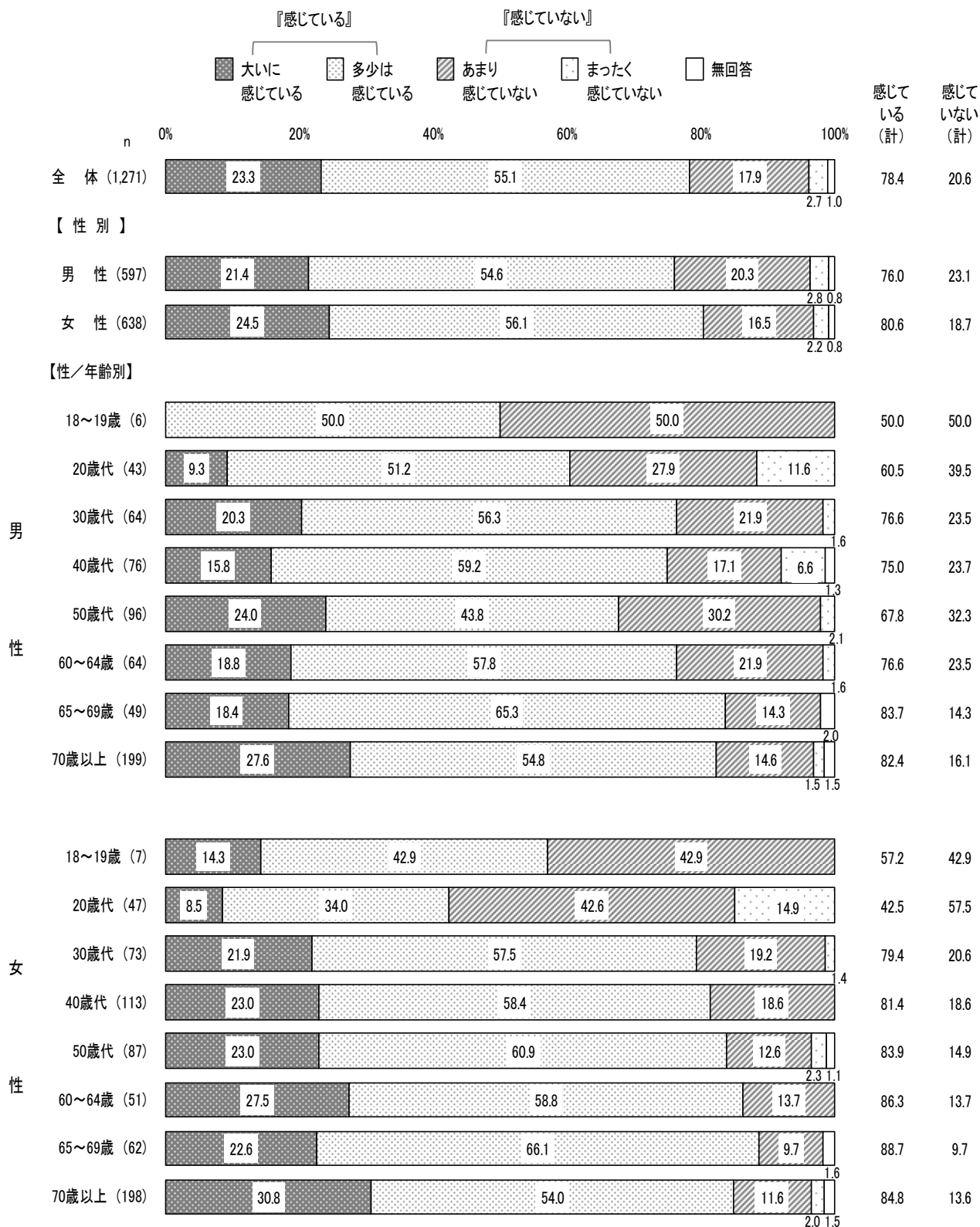


全体でみると、「大いに感じている」(23.3%)と「多少は感じている」(55.1%)の2つを合わせた『感じている』(78.4%)が8割弱となっている。一方、「あまり感じていない」(17.9%)と「まったく感じていない」(2.7%)の2つを合わせた『感じていない』(20.6%)が約2割となっている。



過去の調査結果と比較すると、『感じている』が前回(令和5(2023)年)から11.9ポイント増加している。一方、『感じていない』が前回(令和5(2023)年)から10.9ポイント減少している。

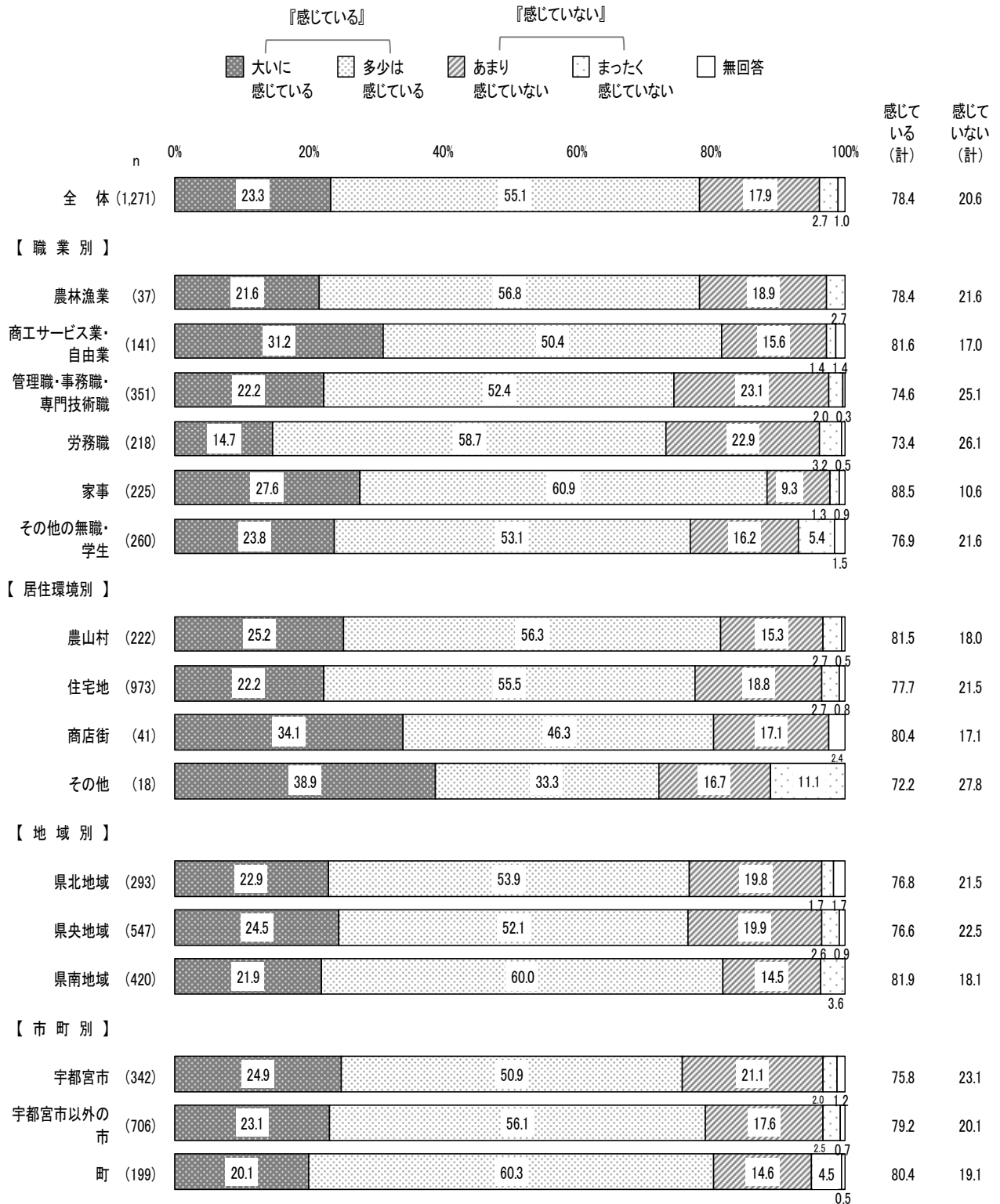
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『感じる』では〈女性〉80.6%が、〈男性〉76.0%より4.6ポイント高くなっている。一方、『感じない』では〈男性〉23.1%が、〈女性〉18.7%より4.4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『感じる』では〈女性65～69歳〉88.7%が最も高くなっている。一方、『感じない』では〈女性20歳代〉57.5%が最も高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『感じている』では〈家事〉88.5%が最も高くなっている。一方、『感じていない』では〈労務職〉26.1%が最も高くなっている。

居住環境別でみると、『感じている』では〈農山村〉と〈商店街〉がともに8割台となっている。

地域別でみると、『感じている』では〈県南地域〉81.9%が最も高くなっている。

市町別でみると、『感じている』では〈宇都宮市以外の市〉と〈町〉がともに約8割となっている。

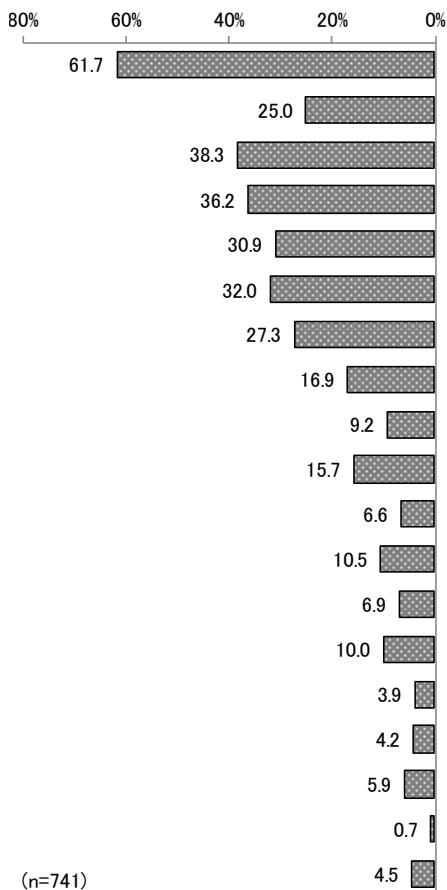
(2) 食品の安全性について不安に思うもの

(問30で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

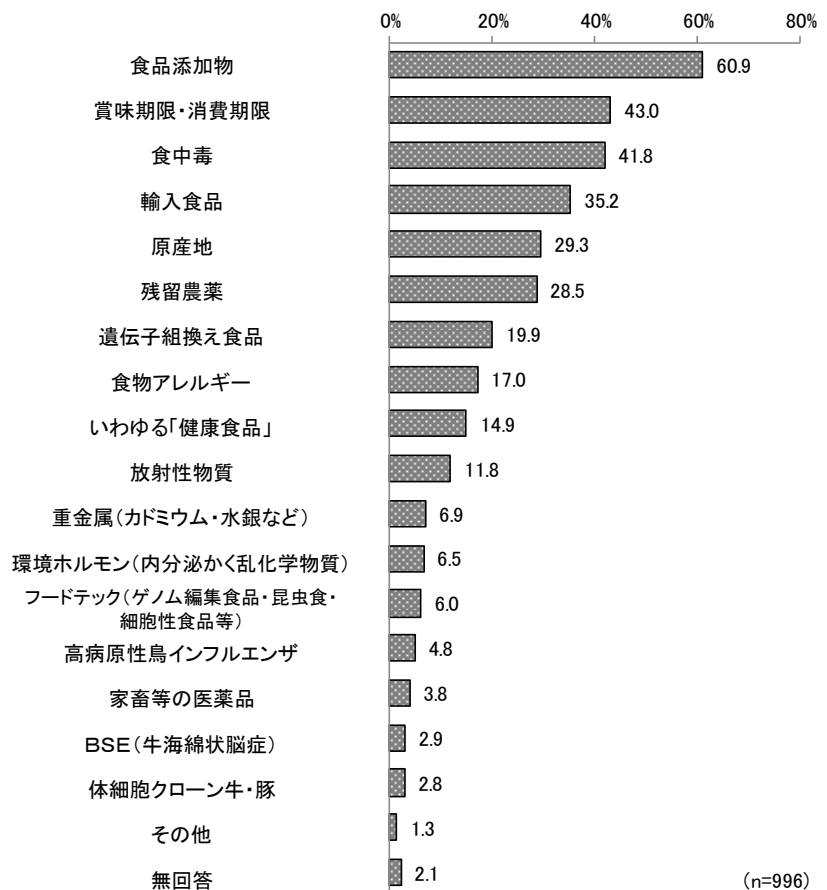
問31 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から4つまで選んでください。 [n=996]

1 食中毒	41.8%	11 輸入食品	35.2%
2 食品添加物	60.9	12 BSE(牛海綿状脳症)	2.9
3 いわゆる「健康食品」	14.9	13 高病原性鳥インフルエンザ	4.8
4 放射性物質	11.8	14 体細胞クローン牛・豚	2.8
5 重金属(カドミウム・水銀など)	6.9	15 家畜等の医薬品	3.8
6 残留農薬	28.5	16 環境ホルモン(内分泌かく乱物質)	6.5
7 食物アレルギー	17.0	17 フードテック(ゲノム編集食品・昆虫食・細胞性食品等)	6.0
8 賞味期限・消費期限	43.0	18 その他	1.3
9 原産地	29.3	(無回答)	2.1
10 遺伝子組換え食品	19.9		

【令和5(2023)年】



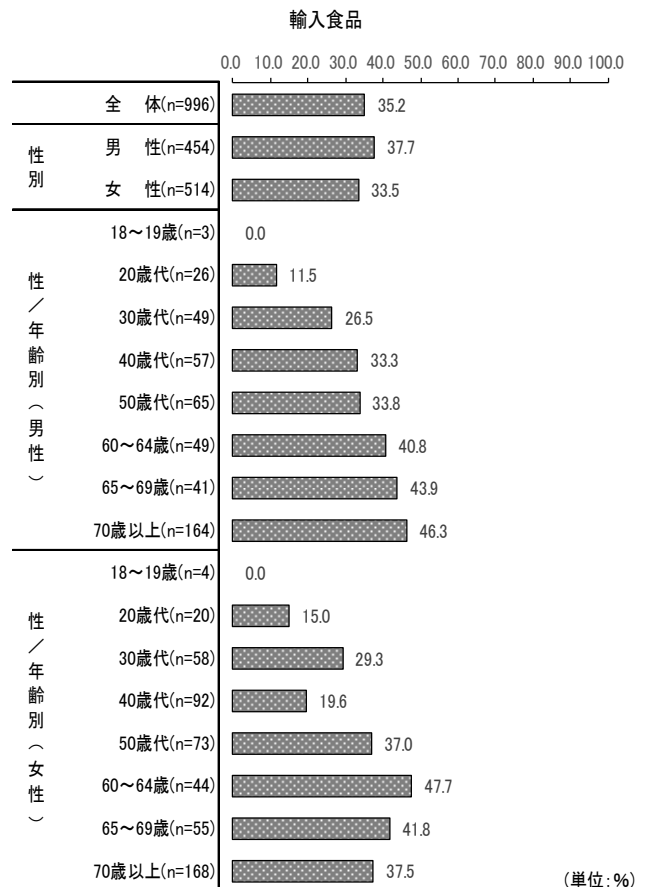
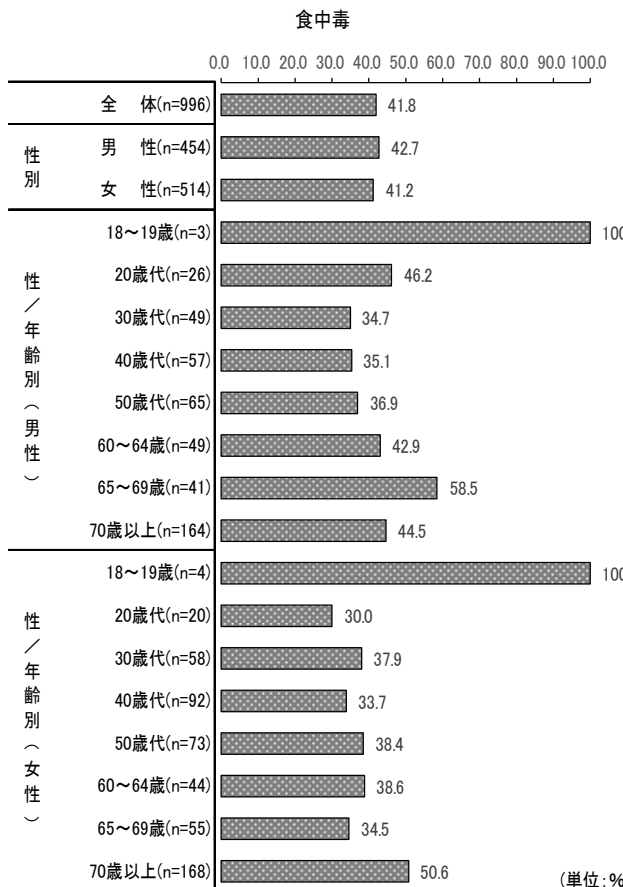
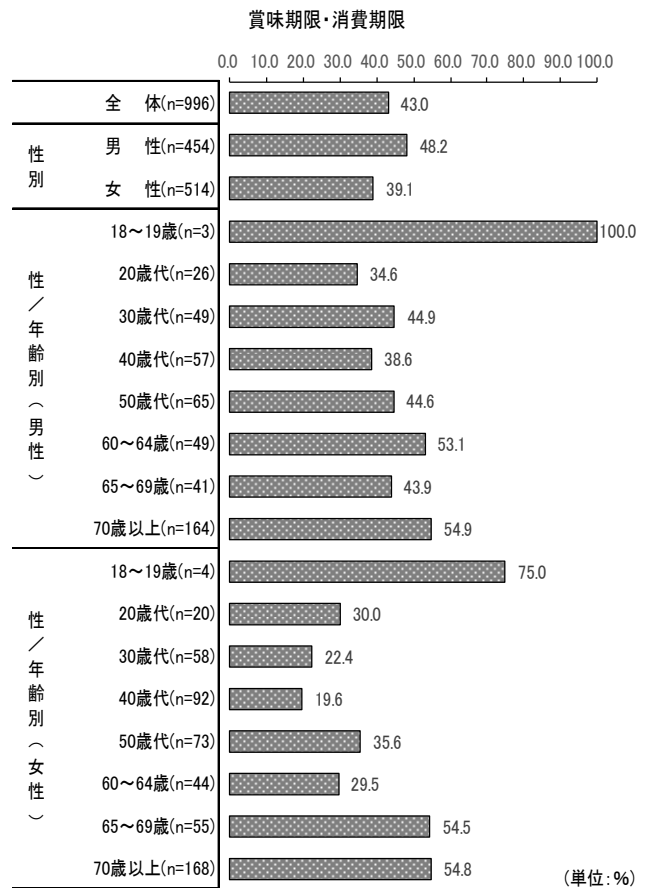
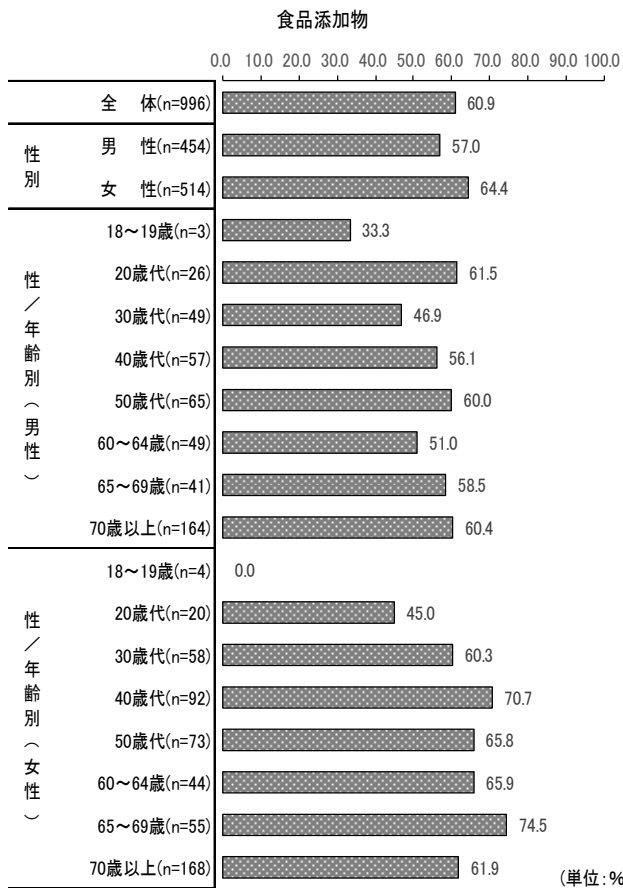
【令和6(2024)年】

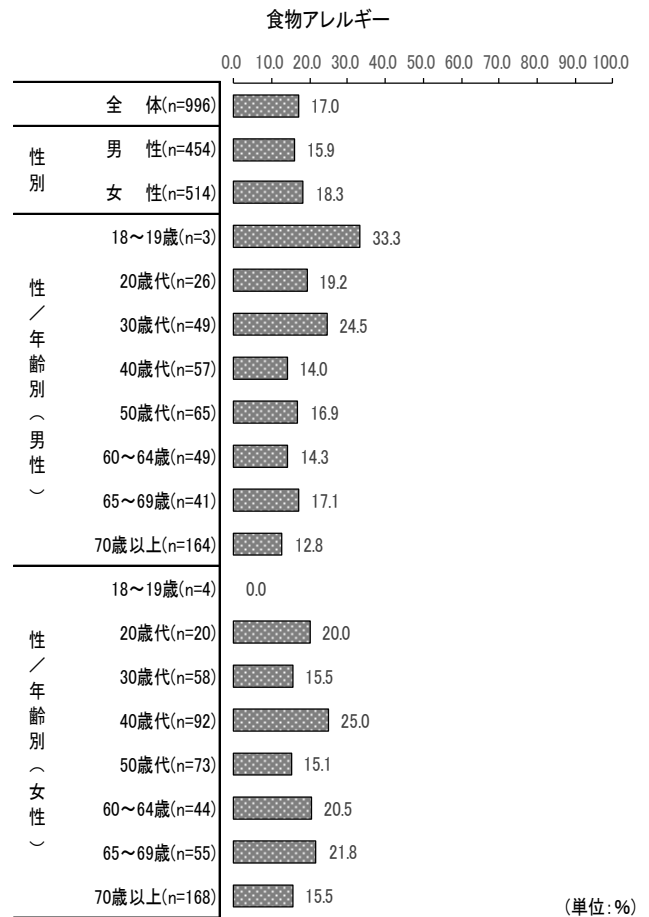
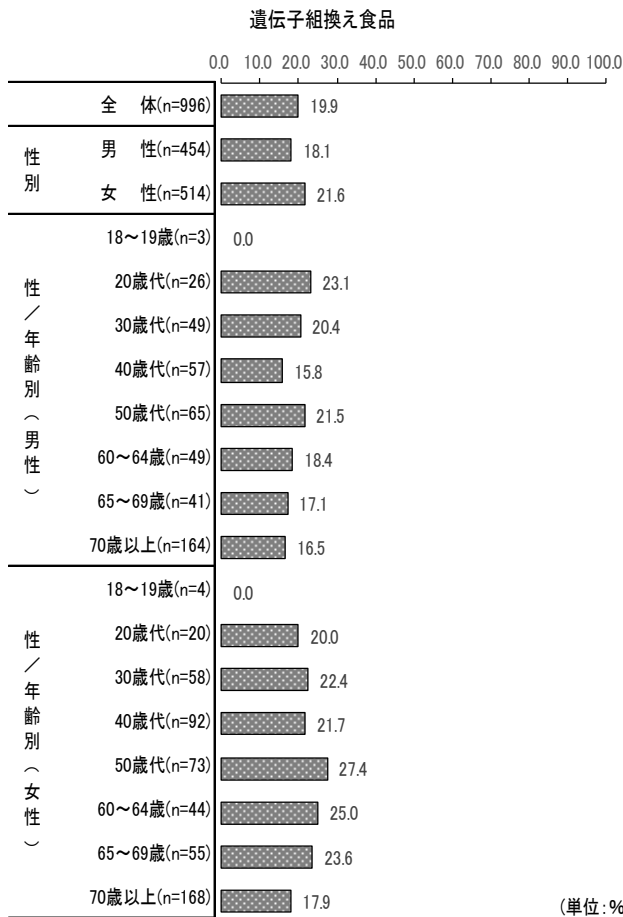
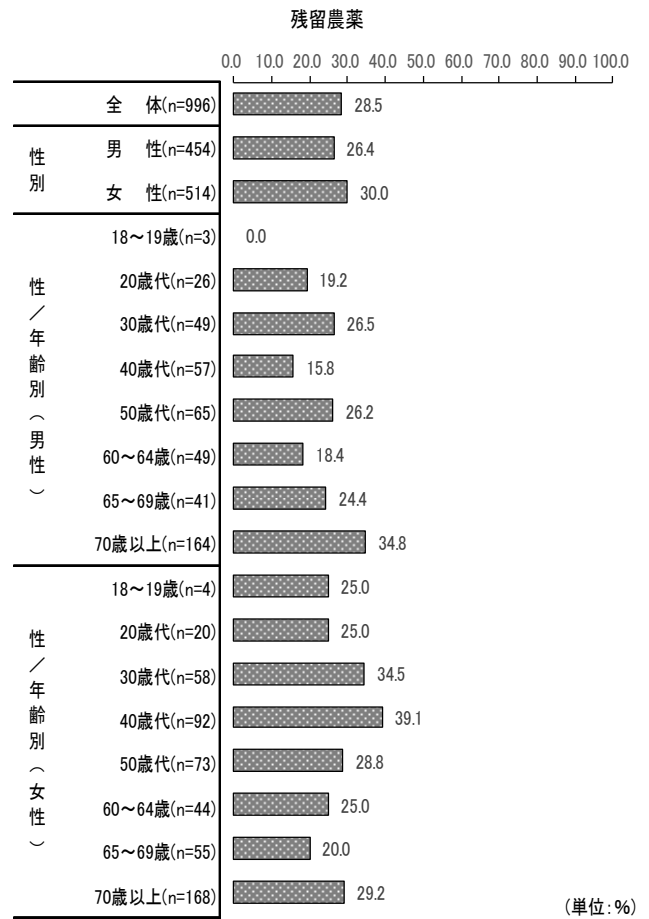
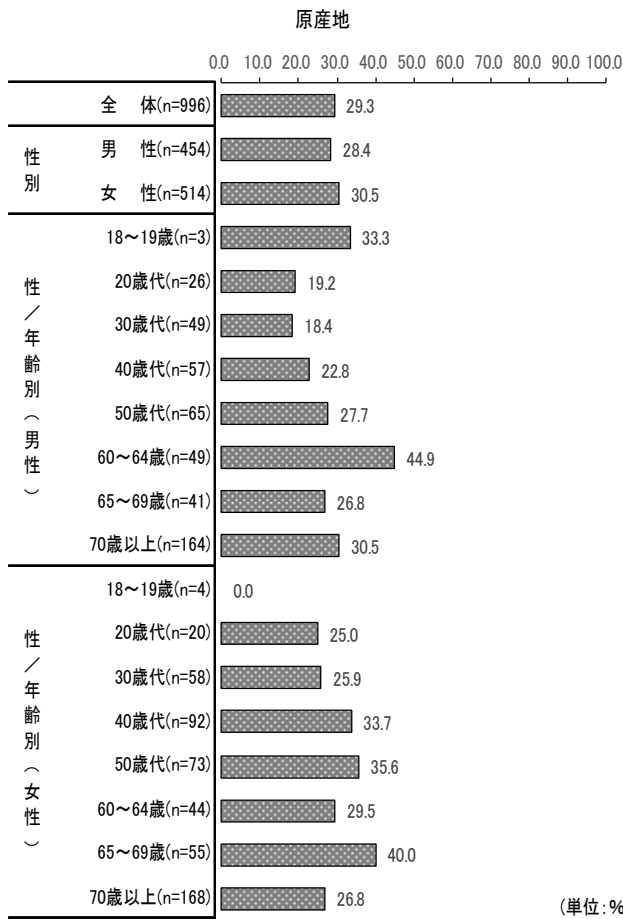


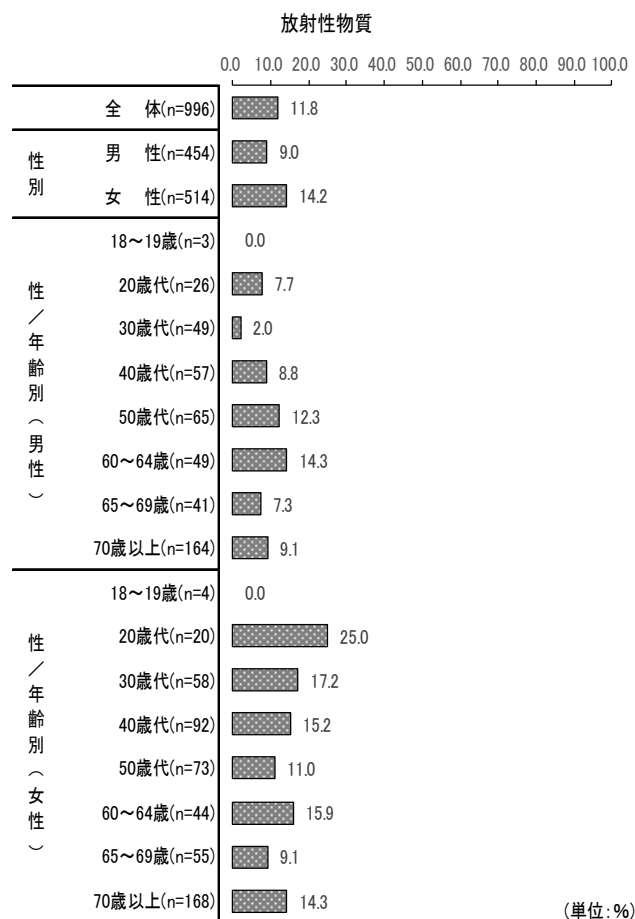
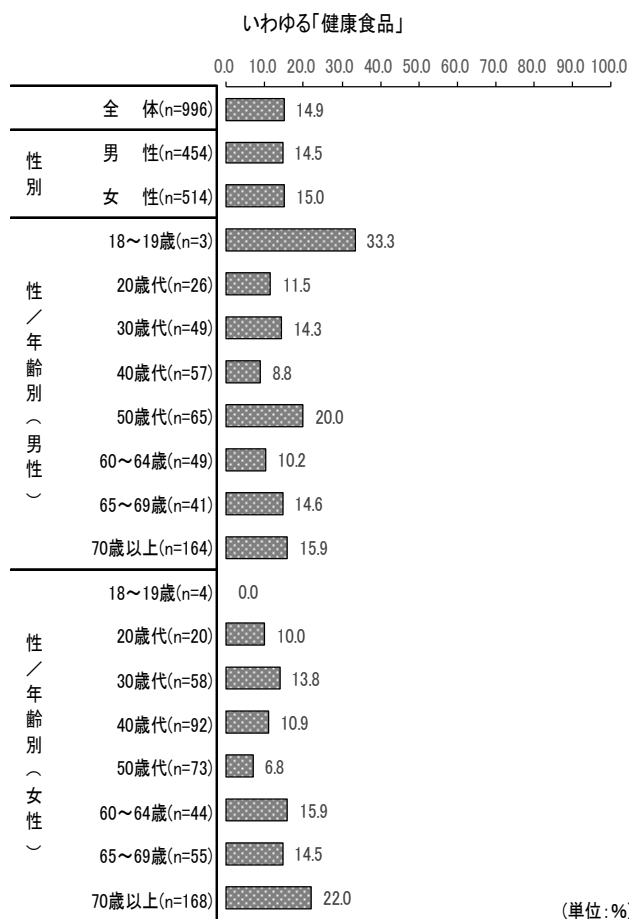
全体で見ると、「食品添加物」(60.9%)が約6割で最も高く、次いで「賞味期限・消費期限」(43.0%)、「食中毒」(41.8%)、「輸入食品」(35.2%)の順となっている。

前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、「賞味期限・消費期限」では18.0ポイント増加している。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)



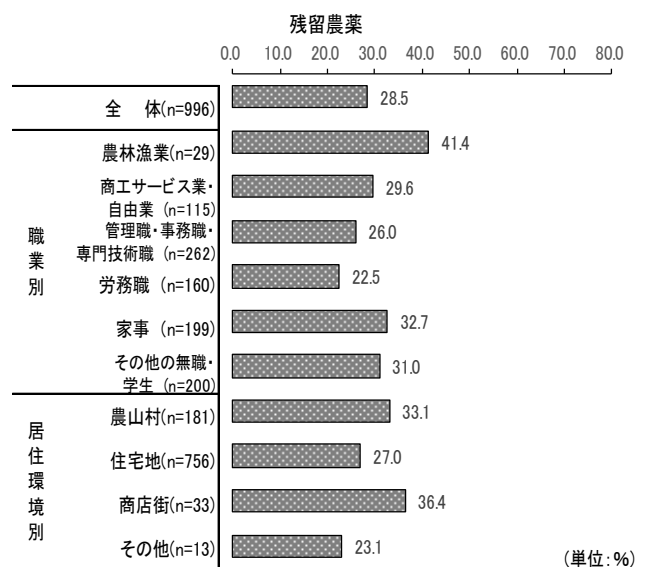
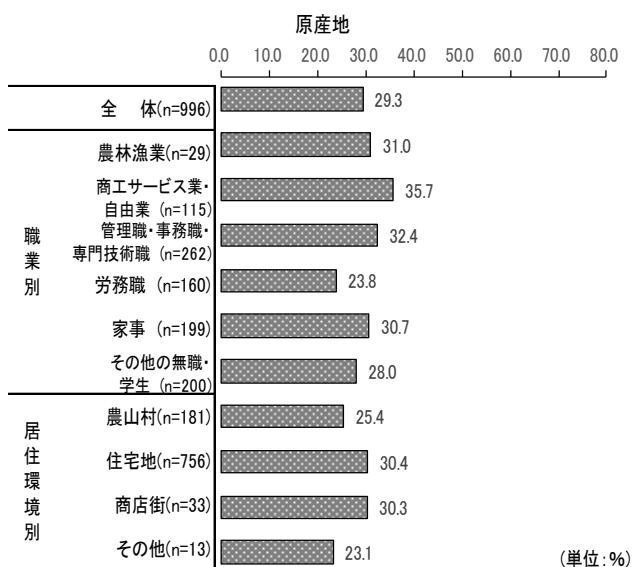
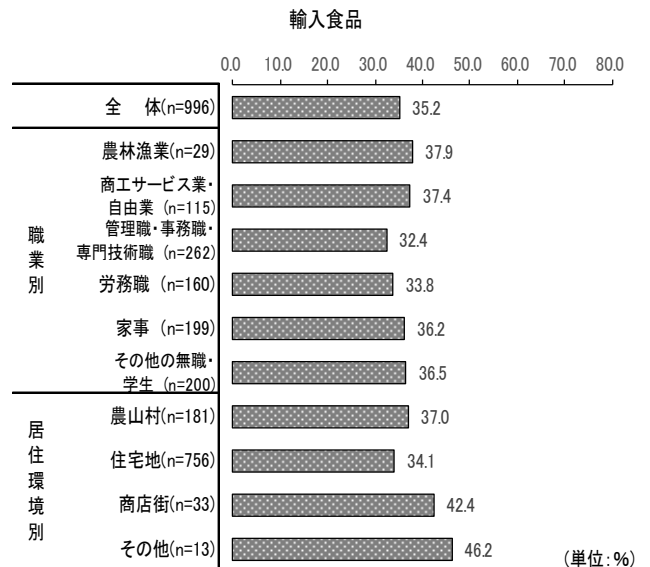
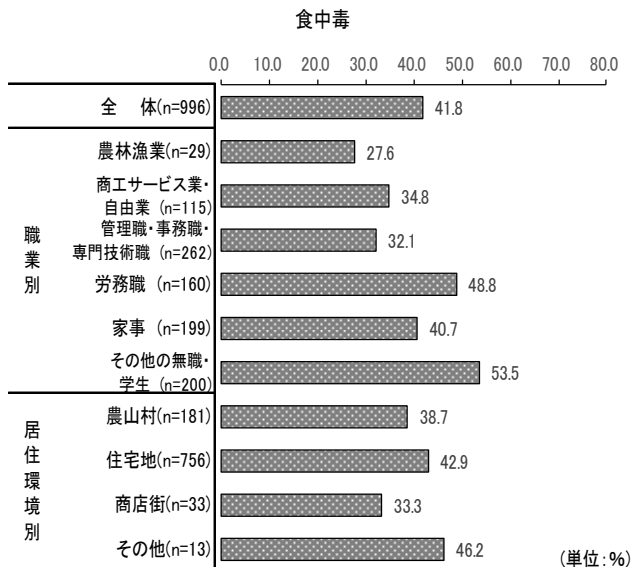
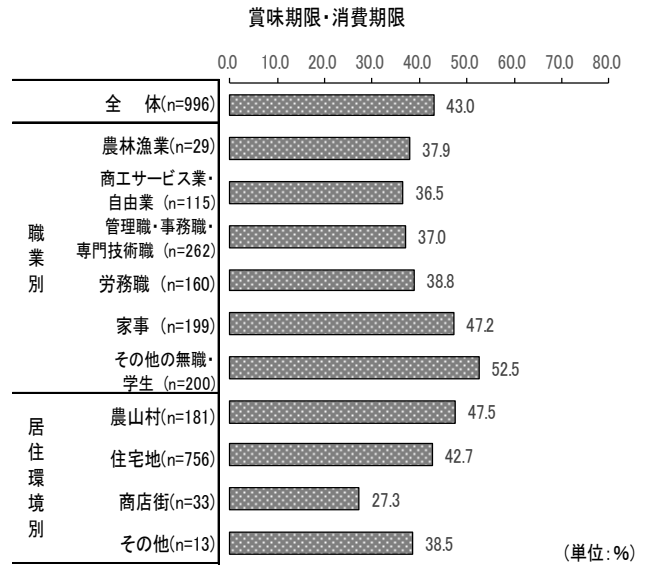
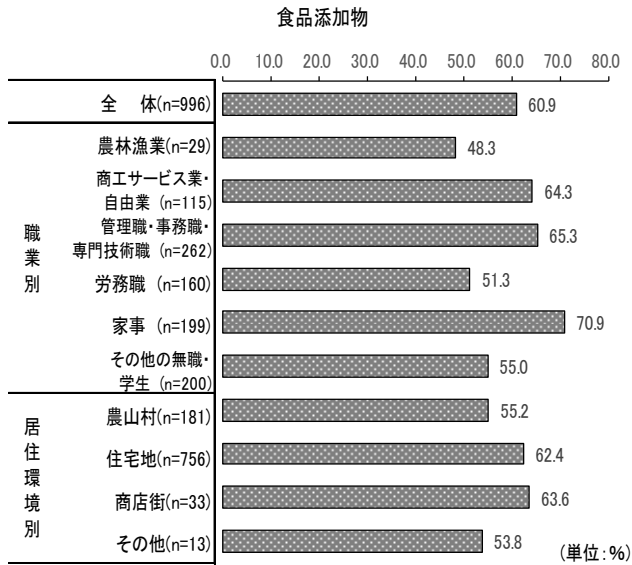




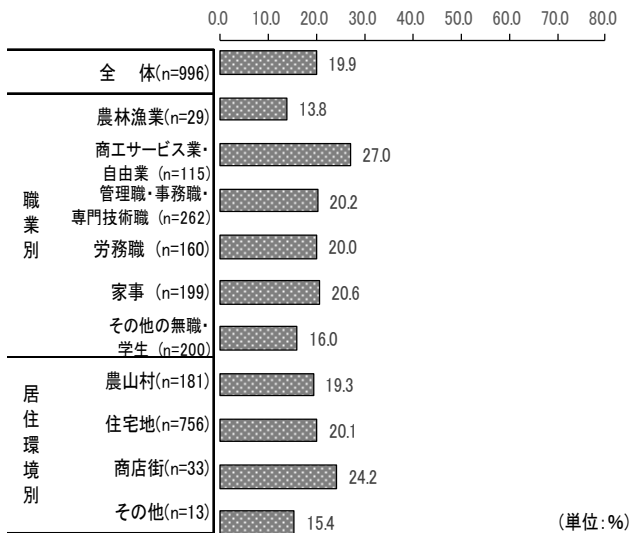
性別で見ると、「賞味期限・消費期限」では〈男性〉48.2%が、〈女性〉39.1%より9.1ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

性/年齢別で見ると、「食品添加物」では〈女性65~69歳〉74.5%が最も高く、〈女性20歳代〉45.0%が低くなっている。「賞味期限・消費期限」では男女ともに70歳以上が約55%と高く、〈女性40歳代〉19.6%が最も低くなっている。「食中毒」では〈男性65~69歳〉58.5%が高く、〈女性20歳代〉30.0%が最も低くなっている。

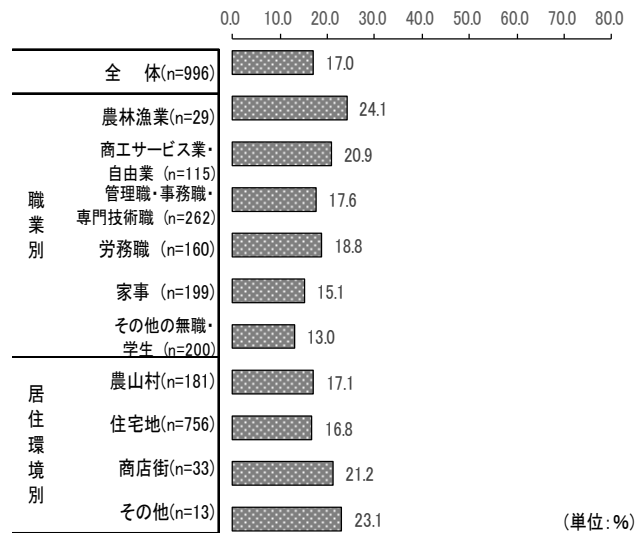
[職業別・居住環境別] (上位10項目)



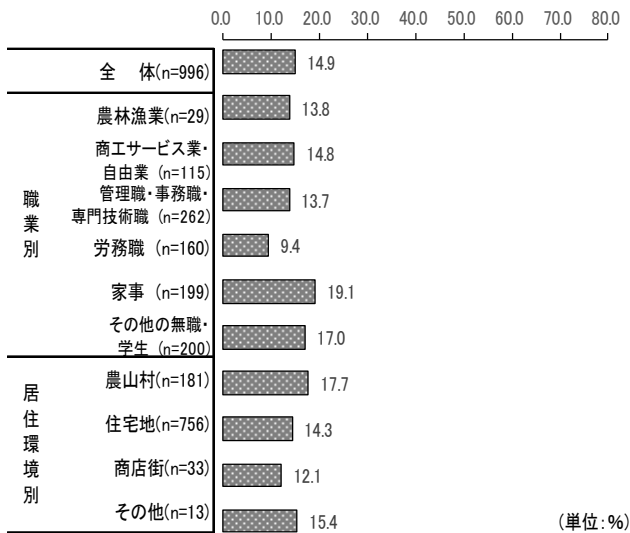
遺伝子組換え食品



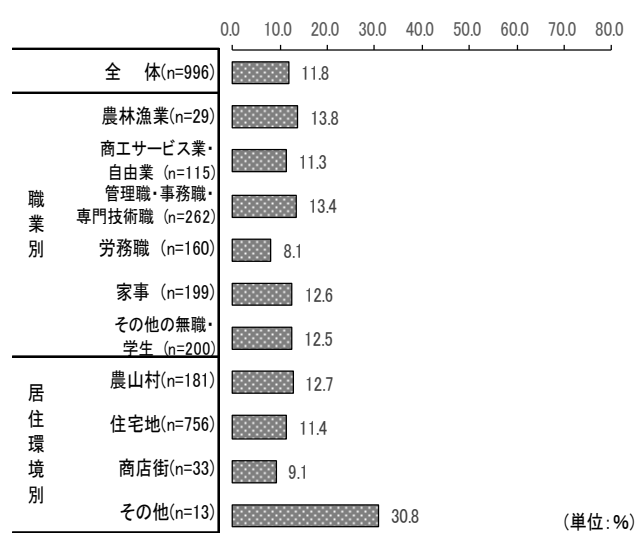
食物アレルギー



いわゆる「健康食品」



放射性物質



職業別で見ると、「食品添加物」では〈家事〉70.9%が最も高く、〈農林漁業〉48.3%が最も低くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈その他の無職・学生〉52.5%が最も高く、〈商工サービス業・自由業〉36.5%が最も低くなっている。「食中毒」では〈その他の無職・学生〉53.5%が最も高く、〈農林漁業〉27.6%が最も低くなっている。

居住環境別で見ると、「食品添加物」では〈商店街〉63.6%が最も高く、〈その他〉53.8%が最も低くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈農山村〉47.5%が最も高く、〈商店街〉27.3%が最も低くなっている。「食中毒」では〈その他〉46.2%が最も高く、〈商店街〉33.3%が最も低くなっている。